

◇実施日 平成29年4月30日（日）

◇場所 和気神社：〒709-0412 岡山県和気郡和気町藤野1385

◇内容

和気神社は、奈良時代の宇佐八幡宮神託事件で有名な和気清麻呂を祀る神社である。

・和気清麻呂

733年和気町に生まれ、武官として出仕し、近衛将監となる。769年の道鏡事件の際に姉の和気広虫に代わり、宇佐八幡宮まで勅使として詣で、神託を受けて復奏するが、道教や称徳天皇の意に沿うものでなかったため、大隅国（鹿児島県）に流罪となり、「別部穢麻呂（わけべのきたなまる）」と改名させられる。770年の称徳天皇の崩御に伴い、道鏡は失脚し、和気清麻呂は従五位下に復位した。



・宇佐八幡宮神託事件

藤原仲麻呂の乱後、孝謙上皇は仲麻呂の推挙で天皇に立てられていた淳仁天皇を廃位し、称徳天皇として重祚する。孝謙上皇の病を治したことから信頼を得ていた弓削道鏡は、称徳天皇の片腕として、太政大臣・法王となり政治にも介入するようになっていた。

769年に太宰府の主神であった中臣習宣阿曾麻呂が宇佐八幡神の神託として「道教を皇位に就かせば天下太平になる」と称徳天皇に奏上したのが始まり。称徳天皇は側近であった尼僧の和気広虫に宇佐八幡宮に神託の確認をさせるために派遣しようとしたが、虚弱であったため弟の清麻呂に確認するように命じた。

和気清麻呂は宇佐八幡宮に勅使として詣で、「我国家開闢以来君臣定牟以臣為君未之有也 天之日嗣必立皇緒無道之人宜早掃除（我が国家は開闢より以来、君臣定まれり。臣をもって君となすこと、未だこれあらざるなり。天つ日嗣は必ず皇緒を立てよ。無道の人にはよろしく早く掃ひ除くべし。）」という大神の神託を持ち帰り奏上する。この報告に怒った称徳天皇は、清麻呂の名前を別部穢麻呂と改名し、大隅国に流罪とし、姉の広虫は別部広虫売（わけべのひろむしめ（「日本後紀」では狭虫（さむし））と改名させ、備後に配流する。

称徳天皇の死後、後ろ盾を失った道鏡は下野国に配流される。

この事件に関わる歴史解釈は定まっていない。道鏡が本当に皇位を狙ったのであれば、それが失敗した場合、極刑に値するはずであり、下野国に配流という罰は軽すぎる。今後の解釈が待たれるところである。



和氣清麻呂は戦前には皇位の正当性を護持した勤王の忠臣として採りあげられていたようであるが、奈良時代の称徳天皇の強権の下、藤原氏等の貴族でさえ天皇の意見に反論できない空気の中、自分の仕事を全うした人物として評価できるのではないか。現代の世界に置き換えるならば、政治や経済の流れやメディアに流されることなく、クリティカルに自分の意見をつくることの大切さを伝える教材化が可能であると考えている。



和氣清麻呂が大隅国に流された際、道鏡がさし向けた刺客からイノシシが守ったという伝説から、和氣神社の狛犬はイノシシということになっている。よく見ると、一方は口を開け、一方は口を閉じており、狛犬や仁王像の様式を踏襲していることがわかる。